

基本計画特別委員会 GREEN×EXPO みどり分科会記録

【 速 報 版 】

令和8年5月29日開会

速報版

- ・ この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・ 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・ 正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横 浜 市 会

開会時刻 午後1時13分

◎ 開会宣告

- 川口広主査 これより基本計画特別委員会GREEN×EXP0みどり分科会を開会いたします。

審査に入ります前に、委員の皆様を確認をいたしたいと思います。

前回も申し上げましたとおり、審査につきましては質疑のみを行い、意見表明を行わない方法で審査をいたします。

また、分科会報告書につきましては、主な質問項目を局別に記載いたしますので、主査において取りまとめをし、提出をいたしたいと思います。

以上、御了承願います。



◎ 市第1号議案（関係部分）の審査

- 川口広主査 それでは、みどり環境局関係の審査に入ります。

なお、当局からの発言に際しては着座のままで結構です。

市第1号議案（関係部分）を議題に供します。

市第1号議案 横浜市中期計画2026～2029の策定（関係部分）

- 川口広主査 当局の説明を求めます。

- 田口みどり環境局長 それでは、市第1号議案横浜市中期計画2026～2029の策定について御説明いたします。

当議案は、横浜市議会基本条例第13条第2号に基づいて提出するもので、議案書の33ページから95ページに記載されています。

中期計画素案は、令和7年12月の第4回市会定例会の各常任委員会にて説明いたしました。

本日は、横浜市中期計画2026～2029原案みどり環境局抜き刷り版を使用し、素案から変更した点を中心に簡潔に御説明いたします。

PDF資料は見開きになっており、左右それぞれのページにページ番号が振られています。

それでは、表紙からお進みいただき、左側の2ページ、議決範囲の考え方と書いてあるページを御覧ください。

議決範囲の考え方ですが、横浜市中期計画2026～2029の議案については、原案のうち、現状と課題や目指す姿等をまとめており、本資料では該当部分を黒い点線で囲んでいます。

右側3ページは、みどり環境局の関連部分を記載した目次です。

1、14の政策群と33の施策群、2、明日をひらく都市プロジェクト、参考資料、素案からの主な変更点について順次御説明いたします。

お進みいただき、4ページ及び5ページを御覧ください。

本ページ以降、素案からの主な変更点は緑色の字で記載しています。

政策群13、環境との共生についてですが、素案からの大きな変更点はございません。当局の取組であるた

べるサーキュラーに関する部分を黄色でお示ししています。

お進みいただき、左側6ページを御覧ください。

本ページ以降は、これから御説明する箇所に黄色のマーカーをつけています。

まず、政策群14、みどりについて御説明します。

現状と課題として、1つ目の丸に公園・動物園の魅力向上、2つ目の丸に市民が実感できる都市農業、3つ目の丸に身近なみどりの保全と創出についてまとめています。

また、その下に、目指す姿として、1つ目に、公園のまちヨコハマの推進や動物園のリニューアルによる魅力向上を進めることで、子供を中心に多様な体験の場が創出されるとともに、都市ブランド力の向上につながっていること。

2つ目に、身近に農を実感できる機会が増えることにより、市民の皆様の豊かで潤いのある暮らしが実現され、また循環肥料の市内農地での活用など、都市と農地が近接している横浜の特徴を生かした取組が進められていること。

3つ目に、大気や水、土壌などの生活環境の保全に加え、樹林地や河川、海などの自然環境が保全されるとともに、市街地でのみどりの創出が進み、市民の皆様が水辺やみどりを身近に感じられていることを掲げています。

これらについて、素案からの変更はございません。

右側の7ページを御覧ください。

施策群31、公園・動物園ですが、パブリックコメントでいただいた御意見を踏まえ、方向性にプレイパークの表記を緑色の字で追記しています。

指標、市民の動物園に関する満足度ですが、素案では数値を調査中としておりましたが、横浜市市民生活・needs調査結果を踏まえ、現状を78.9%、目標を維持・増加78.9%以上としています。

施策群32、都市農業の指標、農に親しむ機会があると答えた市民の割合ですが、素案では数値を調査中としておりましたが、横浜市市民生活・needs調査結果を踏まえ、現状を23.5%、目標を33%以上としています。

施策群33、みどりの保全と創出の指標、よこはまのみどりを魅力的と感じる市民の割合についても、同様に、素案では数値を調査中としておりましたが、横浜市市民生活・needs調査結果を踏まえ、現状を76.5%、目標を維持・増加76.5%以上としています。

お進みいただき、8ページ及び9ページには政策体系図を記載しており、こちらは素案からの大きな変更はございません。

政策群に関する説明は以上です。

お進みいただき、10ページを御覧ください。

明日をひらく都市プロジェクトについて御説明します。

お進みいただき、12ページ及び13ページを御覧ください。

テーマ01、循環型都市への移行について御説明します。

左側の現状及び将来見通し及び右側の方向性については、素案からの変更はございません。

お進みいただき、14ページ及び15ページを御覧ください。

みどり環境局は、左上に記載しているたべるサーキュラー、横浜の農を生かした食の循環に取り組みます。

これについて、素案からの変更はございません。

明日をひらく都市プロジェクトに関する説明は以上です。

最後に、16ページを御覧ください。

素案からの主な変更点のうち、みどり環境局の関連項目を抜粋しています。説明と重複いたしますので、参考として後ほど御覧ください。

以上、市第1号議案横浜市中期計画2026～2029の策定について、みどり環境局関連部分を御説明申し上げました。

○ **川口広主査** 説明が終わりましたので、質疑等に入ります。

○ **おさかべさやか委員** 御説明ありがとうございました。先ほどもゴーゴのところでもちょっと出ましたが、3つのZOOみらいプロジェクトについて、自民党の藤代議員から先日の特別委員会、基本計画のところで質問させてもらって、市長からは3つのZOOみらいプロジェクトを推進して市民の満足度、都市の魅力度向上を図っていくと答弁いただきました。

横浜市に3つ動物園があるというのは、やっぱりこれは横浜市の大きな強みであると思っています。このプロジェクト、3園でどのような取組を検討しているのか教えてください。

○ **松本戦略企画部担当部長** ありがとうございます。3つのZOOみらいプロジェクトについてですが、まずズーラシアでは、世界基準の動物園ということで、生息環境展示に非常にこだわった動物園ですので、展示施設にさらに磨きをかけるとともに、宿泊体験と組み合わせたここにしかない特別な体験の中身について今検討を進めているところです。

次に、金沢動物園では、具体的には子供たちが横浜の豊かな自然を学べる身近ないきもの館というのが人気のある施設であるのですが、これのリニューアルですとか、入り口エリアに魅力的な遊具を配置するなど、自然と学びがいっぱい、遊びを通してそういった経験ができる動物園を目指していきます。

野毛山動物園はリニューアルを今進めているところでございますので、3園の強みを生かして、各園が連携して一体的な魅力向上策となるように推進してまいります。

○ **おさかべさやか委員** ありがとうございます。お隣の磯部委員から、餌やり体験とかバックヤードツアーとか、そういった動物たちを五感で感じられるような魅力的なコンテンツをどんどん考えていってほしいという話を局別のときにさせてもらって、そういうことをやっていくって答弁いただいていたかと思うのですが、動物を間近に感じられる体験、うちの子なんか触れ合い体験、子供たちはもう大好きなものですけれども、水遊びと同じくらい触れ合いも出して、水遊び、動物触れ合い、大型遊具のこの3種の神器がそろえば、子供たちは本当に丸1日その公園で遊んでくれると親としてはすごい楽になるのですけれども、これを間近に感じられる体験、具体的にどのような取組をするのか教えてください。

○ **松本戦略企画部担当部長** 飼育員の解説を聞きながら、ふだんなかなか見ることができない動物たちの寝室での様子ですとか餌を食べている様子ですね、今も無料の餌やり体験はやってはいるのですが、こういったことをもっと増やして、その動物たちの生態や野生での状況等を学ぶ環境教育の効果は非常に高くなるものだと考えております。

先ほどからお話ありますが、動物福祉に十分配慮しながら、このようなバックヤードツアー等の充実を図っていきたくて考えております。また、来園者の方に楽しんでいただいて、そこから学びにつながるよう、価値のある体験を提供できるよう取組を進めてまいります。

- **おさかべさやか委員** ありがとうございます。まだまだいっぱいいろんな楽しいアイデア出ると思いますので、ぜひこういったコンテンツ充実させていってください。

次に、たべるサーキュラー、ちょっと質問させてください。

サーキュラーエコノミーの取組、非常に重要だと思っています。このたべるサーキュラーについて、具体的などのような取組をしていくのか教えてください。

- **松本戦略企画部担当部長** たべるサーキュラーについてですが、食べ物を中心とした循環には幾つか種類が考えられまして、まずは市内の家庭や事業者から排出される生ごみ等の食品廃棄物、それから下水の汚泥から回収した再生リン、それから農地なんかで農作物を収穫した後に残った根っことか茎とか、そういった廃棄物、これを資源と捉えて活用して堆肥化したりとか肥料とすることで、また野菜の栽培に使ってその野菜が市民の食卓に返るという、そういう循環に取り組んでまいります。

こうした取組に多くの市民の方が参加されることで、循環型社会の重要性を理解していただいて、大きな行動変容につなげていければと考えております。

- **おさかべさやか委員** ありがとうございます。今年4月からは、再生リンのみんなのこえという肥料、一般販売が開始されて、下水道河川局との連携で進んでいるかと思います。この再生リンを市内で活用を進めていくには多くの農家に使ってもらう必要があると思うのですけれども、どのような取組で使ってもらうように進めるのか教えてください。

- **田口みどり環境局長** ありがとうございます。肥料ですので、農家の方が使っていただかないと始まらないというところがありますので、農家の皆様に堆肥の利用の意向調査ですね、そういうものを行って、しっかりとニーズを確認いたすとともに、堆肥の試験栽培を実施しまして、植物の生育状況などの確認も併せて行っていきたいと考えています。

このような取組を通じて市内の農家の皆様に広く御利用していただけるように、我々この都市農業を推進しているみどり環境局が中心となって、資源循環局ですとか再生リンを担当している下水道河川局ともしっかり連携して進めていきたいと思っています。

- **おさかべさやか委員** ありがとうございます。下水道河川局としっかり連携して、都市農業の発展にもつながるように頑張ってください。

もう一点、プレーパークなのですが、私、公園大好きでプレーパークのある公園にもよく行くのですが、世田谷区が発祥で、うち青葉区に住んでいるので、やっぱり246で駒沢緑泉公園のプレーパークとか世田谷公園のプレーパークに行くことが多いですね。横浜市のプレーパークでやっぱり遊ぶことはほぼないというか、1回もない。

今回、これ予算拡充して出張プレーパークをやって、駐車場があるような公園でも広めていくと。プレーパークを利用してくれる人たちを増やしていくということでの予算拡充だと思うのですが、横浜市内に常設のプレーパークが3つあって、この前うさぎ山のプレーパーク行ってきたのですが、常設のプレーパークに常設の大型遊具がないのですよ。ターザンロープとか、屋根の上登って遊べるとか、ネット遊具みたいなプレーパークならではの手作りでダイナミックなような遊具。なので、やっぱり未就学児の子たちは結構集まっていて、小学生の高学年とかは全然なくて、うちの子たちなんかはもうすごい体力あり余っているからやっぱりダイナミックな遊具で遊びたい。その点、やっぱり世田谷区のほうはそういうふうになっているので246で世田谷に私は行ってしまおうのですが、プレーパークこれからなのでしょうけ

れども、横浜市の子育て政策ってやっぱり未就学児とか乳幼児にばかりやってきていて、学齢期の子たちに冷たいなってちょっと感じているのです。プレーパーク一つ取ってもそうですし、ぜひ常設プレーパークの大型の常設遊具も検討してもらえたらと思いますので、これは要望として伝えさせてください。

以上です。

- **古谷靖彦委員** ありがとうございます。政策群14のみどりのところのこの1点だけ伺います。
公園のまちヨコハマであるということで今うたっていらっしゃるんですが、もちろん公園が少ないとは思っていないのですけれども、では目指す目標に対して達成しているのかという点なののですけれども、本市の公園配置基準に対して目標達成率、今どうなっているのでしょうか。
- **内田農政部長** 本市の身近な公園につきましては、小学校区当たり街区公園2か所、近隣公園1か所を配置をするというのが配置計画として定めておりますけれども、おおむねですけれども、50%程度の整備率ということになっております。
- **古谷靖彦委員** それで、これって計画そのものは大分古い計画だと思うのですね。そうすると、ではいつまでにこれは目標に対して達成するのか。さらに言えば、公園のまちヨコハマというからにはぜひ達成してもらいたいなとちょっと思っているのですけれども、そこら辺どうですか。
- **田口みどり環境局長** 委員のおっしゃるとおり、目標は大分前の水と緑の基本計画で立てたものというところはありますけれども、なかなか用地を買ってというよりも、何か御提供いただいたところを近隣の方の御意見を伺いながら、では公園にしていこうという形で進めていくものになっていますので、なかなかどんどん進むということは難しいのかなと思っています。
一方で、今、優しい公園づくりですとか、バリアフリーとかトイレを洋式化したり、あとは多くの方がゆっくり憩えるような、そういう公園づくりというのでも進めていますので、都心部のにぎわいをつくる公園と、公園がいろいろな、ただ子供たちが遊ぶというよりもいろんな目的が、ポテンシャルがあるのかなと私も思っていて、ちょっとそういうところを総合的に進めていきたいと思っています。
- **古谷靖彦委員** 恐らくですけれども、4割ぐらいですよ、達成率はね。なのですよ。それで、これ何らかの空き地があったらとか提供があったらというのは、それそのものがもう優先順位低いのだと今やっぱり聞こえるのですよね。なので、掲げた目標を、ではどうやって、その地域の人たちにとってみればやっぱりちゃんと税金払っている方々ですよ。この地域には公園がないのだと、少ないのだということになっているわけだから明らかな差が出てくるわけですよ、公園の近くにある方々と比べれば。だから、そこは住環境をしっかりと整備するという意味でも、この掲げた目標というのは単に掲げただけではなくてやっぱりやるべき目標だと思いますから、ぜひそれは進めていっていただきたいですし、局としては優先順位しっかり上げて様々働きかけていただきたいと思います。どうでしょうか。
- **田口みどり環境局長** ありがとうございます。公園整備については、先ほども申し上げたように、インクルーシブなど、誰でも利用しやすい公園づくりですとか、あとはまちのにぎわいの貢献などという視点も重要です。おっしゃるとおり、やっぱり身近に子供たちが遊べる、私も去年までこども青少年局にいて、どんな経済状況の御家庭のおうちの子供であっても、もうぱっと身近に家の近くの公園で自然に触れ合ったりとか、そういうことは非常に子供たちの育ちにも有効ですし、大事なことだと思っています。市民の安全・安心して利用できることを第一に取り組んでおりますので、なかなかちょっと進んではおりませんけれども、しっかり取り組んでいきたいとは考えております。

- **二井くみよ委員** ありがとうございます。すみません、この中期の全体的な捉え方という視点からちょっとお伺いしたいのですけれども、例えば政策群14のみどりですと、指標を見てみると、そもそもこの中期計画って市民の実感を高めていくということが主目的として掲げられていると思うのですけれども、例えば33の都心臨海部の新たな魅力あるみどり空間の創出数とかだと、この4年間でゼロを3にしていきたいということですごく分かりやすいのですけれども、結構みどり環境局のこの指標って、既に市民の動物園に関する満足度ですとか、よこはまのみどりを魅力的と感じる市民の割合ですとか、今後4年間かけて現状維持または増加というものと対極にあるというか、すごくゼロから何かしていく、これほかの局もそうかもしれませんが、ちょっとみどり環境局は多い印象がありまして、ゼロからどうするとか、まだ進捗2割ぐらいなのだけれども100を目指すとかというのだったら分かりやすいのですが、現状維持を現状維持以上にするということをや4年間どのようにやっていくのかなというのが分からなくて、私側としても中期の振り返りですとかのときにもどう見たらいいのかなというのも分からないし、4年後、現状維持のままだでもいいのかなともちょっと思いますし、その辺、私も過去の仕事していても現状維持をずっとキープするとかって指示があってもちょっと難しいなって思ったりもするので、結構漠然と目標を掲げてやっていくことにはならないのかなとも思っていて、既に一定の市民評価があるような分野について、今後4年間、どのように市民実感を高めていくような取組をされていくのかということについて、ちょっと伺えたらと思います。
- **田口みどり環境局長** 先ほどもちょっと環境管理計画のときでも申し上げましたけれども、なかなか特に環境に関しては市民の実感というのがより抽象的で捉えにくいのかなというのは思っています。
- 現状維持でいいというわけではなくて、それでも少しでも数値を上げていくということでももちろんやっていきますので、ちょっと我々の例えば施策としても、都心部に例えば魅力あるみどり空間を創出することで、横浜ってやっぱり緑たくさんあるなというのを感じていただくとか、都市農業であれば、もちろん農家の方たちの御支援はするのですけれども、市民の方たちが実際に身近に農がある、そういう豊かな暮らしを実感していただけるような施策、そういう市民の実感を主眼に置いた施策をしっかりと取り組んでいくことで少しでも感じていただくということでやっていきたいと思っています。
- **二井くみよ委員** 分かりました。その辺を着目して振り返りとか見ていけばいいということではよろしいのですかね。そこの今おっしゃられたような部分だと、ゼロから3なのでちょっと進捗見えやすいかなって思ったのですけれども。例えば、市民の動物園に関する満足度とかというのを振り返るときというのは、どういう観点で振り返らせていただくといいのかなと思ったのですけれども、いかがでしょうか。
- **相場戦略企画部長** 動物園に関する中期の位置づけにつきましては、先ほどもありましたけれども、3つの動物園プロジェクトを進めますので、これを進めることによって中期で掲げたこの指標についても維持・向上は図っていくということになるかと思いますので、3つの動物園プロジェクトの進捗を確認していただくということになるのかなと思います。
- **二井くみよ委員** 分かりました。各計画の進捗を個別に確認していくという、中期というよりはということですね。ということで分かりました。ありがとうございます。
- **川口広主査** ほかにいかがでしょうか。
- **尾崎太委員** ありがとうございます。みどりのこの都市農業のところでちょっと確認をしたいのですけれども、都市農業ということで、これ目標とか農に親しむ機会があるという、そういうイメージなのだけれども、この横浜で取り組む都市農業って将来的にというか、今食料自給率の問題だとか、なかなか農業と

いっても18区あって、私たちの区では農業をって言われても土地がない状態ですね。そこでやっていらっしゃる方も少ないとかということもあって、この都市農業ってどういうところを目指して食料自給率の改善に役立てていこうとか、そういった大きな目標の中でやっているのはどういった目標になるのでしょうか、これ、今後というのは。

- **内田農政部長** 横浜は、神奈川県内でも農家数、農地面積、それから産出額は市町村の中でトップでございます。なかなか知られていないのですけれども、農業で頑張っている方いらっしゃると。まず、それがなかなか知られていないと。それらの方をいかに応援していくのか、支援していくのかということがまず大きなポイントだと思います。

それとあわせて、市民の方々になかなか農業があることも知られていない、また触れる機会も限られているということで、農家向けの取組、市民向けの取組、それを2つの柱として取り組んでいるという状況です。

具体的に自給率という形になりますと、横浜は377万人いらっしゃいますので、具体的にその市の中でのどれだけ地産地消に寄与しているかという非常に数値化は難しい。例えば、米なんかは、横浜の市民1日当たりもないかなというぐらいなのですが、ただ景観ですとか、あるいは緑という観点から、非常に環境面も含めて大きな意義があると考えていますし、何よりも横浜で農業を頑張っている方々、米、野菜、果樹、花、それから畜産に至るまで頑張っている方々がいらっしゃいますので、そのような方々をいかに応援し、また知っていただくかというところを力強く進めていきたいと考えています。

- **尾崎太委員** ありがとうございます。当然、既存の農家の方の後継者問題、これはもう全国であるわけですから、こういったことも当然支援も含めて農業を継続してもらおうというのはあるのですけれども、ただもう一点、横浜というと、やっぱり農地だけではなくて、これは企業によると思うのですけれども、今いろんな企業がいわゆる農業をします。いわゆる工場の中で農作物を作ることっていろんなところで進んでいると思うのですね。

これは昔、私も確認したことあったのですけれども、例えばもうある機械生産をやめてしまって、本当にこの工場だけががらんと空いていると。だけれども、例えばその中で、では都市農業みたいな感じで変えようとしても、実際いろんな用途地域の問題とか、あと土をその工場に持ってくると何か法律がいろいろ引かかるとか、ストロベリーパークって鶴見にできた東京電力がイチゴを作る場所があったのですが、そこで土を持ってきてイチゴを作るときにかなりやっぱり制約があったという話を聞いたことがあって、本当にこれ今どんどんとのものづくり産業厳しい中で、例えば空いている工場とか、企業さんのこれは意向によると思いますけれども、そこがでは都市農業に変えていく、何かを本当に付加価値のあるものを生産をして一つのビジネスの柱にしていくみたいなことをやろうとしたときに、この都市農業を掲げる、支援をするという横浜市として、何かそういった法律問題だとか規制問題だとか、いろんなことをクリアを補助しながらとかサポートしながら、そういう新たな都市農業を育てていく、工場で例えば何か生産していくみたいなものって、こういった発想というのはあるのですかね、将来的には。

- **内田農政部長** いわゆる閉鎖型のLEDなどを使った農業をこれまでも参入して、横浜で実際にされている企業もございます。また、例えばこの市庁舎もできる前に、ある横浜の企業が太陽光を使ったドーム型のいわゆる植物工場をされた事例もあります。そういった事例は全国的にもあるのですが、また相談もあるのですけれども、なかなか採算性という点で厳しいというところが実態です。

それ以外に、これまでにいわゆる法人として横浜に参入されている事例が76件ございます。そういう実績

なのですが、今現在でも営農されている方、法人も60件ぐらいございます。それらの方々は様々な方法で営農されていますけれども、実際にほとんどの方々は畑でされている。ただ、例えば社会福祉法人ですとかNPO法人ですとか、福祉関係のことを活動と取り入れながらやっている方もいらっしゃる。非常に多様な農業の形があります。

先ほど委員おっしゃられたような生産性を高めるためのLEDを使った形のものもございますし、それら過去に事例がないと、例えばこの市庁舎の建てる前にあった、それもいろいろ制約があったので試験的にやったということもあります。新しい取組をすると必ずそういった制約が出てきますので、我々としては農業の担い手の確保という意味でも法人参入も力入れていますので、そういった場合にはしっかりサポートして進めていきたいと考えています。

- **尾崎太委員** ありがとうございます。本当に今、産業が変化しているというか、自動車部品関係がどんどん縮小してしまったりとか、いろんな産業が変化していく中で、もし本当に横浜の企業さんが何か新たな道をつくりたいとか、そうなったときには都市農業の一つの分野も御紹介できるような、研究も含めて今後ぜひそういった可能性も追求をいただきたいなと思います。これは要望でよろしく願います。
- **川口広主査** ほかいかがでしょうか。
- **梶村充委員** 4年間ということなので入っていないのだろうと思うのだけれども、深谷のグラウンド、あれは三ツ沢の代わりになる国際的なスポーツができるグラウンドになるわけですね。その記述が一つもないのだけれども、これは当然4年間でできないからということなので入っていないのですか、これは。先ほどのスケボーなんかは、あれだって国際的に今度大会もできるようなスケートボード場になるわけでしょう。だから、そういうのをやっぱり魅力の一つとして入れておくのがいいのではないですか、ここに。
- **相場戦略企画部長** 今回の中期計画、重点的に4年間で取り組む内容についてこの計画書の中に記載をして、それ以外の取組もそれぞれの個別計画の中で数多くやられているという構造になっているかと思います。深谷につきましても、今年度の予算の中には計上いたしております、都市計画の手続、環境アセスメントの手続進めておりますので、しっかりと進めていきたいと思っております。
- **梶村充委員** あと、内田部長さんがいらっしゃるのので聞くのだけれども、昔の土地改良でつくった畑も泉区にいっぱいあるのだけれども、もうそろそろ水のいわゆる自家製で作った管路だから、もう道路下に入っている水道管なんて、そういった供給している管がもうほとんど使えなくなっちゃうのだよね。これはうちだけ、泉区だけの話ではなくて、ほかの緑とか港北なんでもかもうさうだと思うのだけれども、旭とかね。その辺の問題点というのは出ていないのですかね。
- **内田農政部長** いわゆるかんがい施設等の基盤整備系の話だと思うのですが、これから北部農政事務所、南部農政事務所、2つの事務所が現場を地域全体を回ります。昨年だけでも40地区、40の水利組合ですとか土地改良区ですとかから140以上の様々な要望をいただいています。それらの中には、やはりかんがい施設の老朽化、ポンプが非常にもう古いと、あるいは管が古いといったようなものもございます。

基盤整備の予算自体は、最近おかげさまで増額いたしています。2年前、大体6000万円ぐらいだったのが、昨年度1億円、また今年度も1000万円御承認いただきまして増えているという状況です。それでも、やはりハード整備という意味ではお金がかかるということもございますので、優先度の高いところからやっているのですが、委員おっしゃるように、昭和40年代、昭和50年代に整備されたのがほとんどですので、それらの対応について、日々現場の職員が回りながら、農家の方々の御意見いただきながら進めているところで

ので、またしっかり進めてまいりたいと思います。

- **梶村充委員** この間、泉区の田んぼの水利組合の総会があって、50人以上の方が来て、職員の方も来てもらっていましたが、これから田んぼに水を供給するのに大変ポンプも新しいものにしていただいたのでみんな現場は喜んでいましたけれども、そういうやっぱりどうしても自然だけでは追いつかないものがあるわけだよ、農業はね。だから、そういうものについて、やっぱりしっかりと予算の手だても必要だし、こういうところにもできれば書いておいてもらいたいなという気がしたので、ちょっと一言言わせてもらいました。

- **川口広主査** ほかいかがでしょうか。
(発言する者なし)

- **川口広主査** よろしいですか。

他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

以上でみどり環境局関係の分科会の審査は終了いたしました。

本日の分科会の審査は全て終了いたしました。冒頭に申し上げましたとおり、分科会報告書につきましては、私が質問項目を取りまとめた上で基本計画特別委員会委員長宛てに提出をいたします。

◇

◎ 閉会宣告

- **川口広主査** 以上で本日の議題は全て終了いたしましたので、分科会を閉会いたします。

閉会時刻 午後1時47分

速報版